

たのしいさんすう1ねん

年間指導計画案

（学校での授業と、学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版）

大日本図書編集局

【本資料の作成の考え方】

本資料は、休校措置にともなって学校の授業時間が十分に確保できない現状をふまえ、令和2年度用教科書「たのしい算数」について、学校の授業以外で取り組む学習等を年間の指導計画に示したものです。本資料では、以下の考え方をもとに、指導計画を作成しています。

- 授業は1単位時間45分で行われることを前提としています（30分の短縮授業などを取り入れる形式は想定していません）。
- 教科書の主問題（四角番号の問題）は、原則的に授業で扱うこととしています。
- 一部の主問題については、予習を活用して2時間扱いの部分を1時間で扱うなど、短縮が考えられる箇所を示しました。
- 学校の授業以外で取り組む学習活動については、主に知識・技能の習熟を目的とした時間（単元末のたしかめ問題など）や既習の内容の活用を目的とした特設ページなどを想定しています。
- 一部の特設ページについては、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられることを示しました。

本資料はあくまで1つの例として示しています。各地域・学校の実情に合わせて、学校の授業以外での学習活動を増減していただくなど、弾力的にご活用ください。

【本資料の見方】

平時：授業時数127 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内112＋授業以外15

1 対称な図形 (指導時期 4月・10時間) → 授業内9時間＋授業以外1時間

単元の目標

対称性に着目して図形を考察し、線対称、点対称の意味や性質などを理解し、対称な図形を作図することができる。
 知 線対称な図形や点対称な図形の意味や性質、作図の仕方について理解し、対称な図形を弁別したり、作図したりすることができる。
 考 対称という見方で図形を分類したり、性質や規則性を見出したりすることができる。また、線対称、点対称な図形の作図の仕方、性質をもとにして考えることができる。
 主 既習の図形を対称という観点で見直そうとしたり、身の回りから対称な形を見つけようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場での留意点
1 対称な図形 (教p.10～13)	1	①(アプローチ) ◎身の回りの「整った形」を観察することを通して図形の対称性に気づき、線対称、点対称な図形をみる観点として捉える。 ◎「線対称な図形」「点対称な図形」の用語とそれらの定義を理解し、図形を弁別する。	知 「線対称」「対称の軸」「点対称」「対称の中心」の用語とそれらの意味を理解し、線対称な図形、点対称な図形を弁別できる。 考 身の回りの形や既習の多角形などについて、対称性に着目して考察している。	学校の授業以外の場での留意点
2 線対称な図形 (教p.14～16)	2	◎線対称な図形の対応する点、辺、角を調べる。	知 線対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	3	◎対応する点を結ぶ直線と対称の軸との関係を探る、線対称な図形の性質を理解する。	知 線対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の軸によって垂直に2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	4	◎線対称な図形を作図する。	知 線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形を作図することができる。 考 線対称な図形の性質をもとに、作図の方法を考え、説明している。	
3 点対称な図形 (教p.17～19)	5	◎点対称な図形の対応する点、辺、角を調べる。	知 点対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	6	◎対応する点を結ぶ直線と対称の中心との関係を探る、点対称な図形の性質を理解する。	知 点対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の中心を通り、対称の中心によって2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	7	◎点対称な図形を作図する。	知 点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形を作図することができる。 主 線対称な図形を、性質をもとに作図したことを振り返り、点対称な図形も性質をもとに作図しようとしている。	
4 多角形と対称 (教p.20～21)	8	◎既習の四角形を対称の観点から見直す。	知 既習の四角形や三角形を対称という観点で捉え、対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 主 四角形の対称の学習をもとに、他の既習の図形についても、対称の観点で見直そうとしている。	予習でp.20主問題1の三角1、2、p.21主問題2の三角1、三角2の表をつくることに取り組む。 授業ではp.20.21の表を見て話し合うことから、はじめ、第8時、第9時を1時間で指導することも考えられる。
	9	◎既習の正多角形を対称の観点から見直す。	知 正多角形に對称の軸や對称の中心をかき入れることができる。 考 正多角形の対称性に着目し、正多角形と対称の軸の本数や、点対称になる場合の中心について見出している。	
たしかめ問題 (教p.22～23)	10 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 線対称な図形や点対称な図形の性質を理解し、図形を弁別したり、作図したりできる。 考 線対称な図形の弁別を台形の意味に着目して考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまり見え見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生の なるほど算数教室1 (教p.24～25)		◎身の回りから対称な形を探したり、折り紙で対称な形を作ったりして、図形の見方を深め、図形への興味・関心を高める。	主 身の回りに対称な図形があることに気づき、進んで探そうとしている。	

平時の場合の指導時期・指導時数

授業以外での学習活動を取り入れた場合の指導時数

表中でオレンジ色とした箇所を授業以外にした場合の時数です。表中で「～することも考えられる」と示した部分を活用すると、さらに学校の授業時間を削減することができます。

授業や授業以外での指導の留意点を示しています。

平時に授業で扱うことを想定していた学習活動のうち、授業以外で取り組むこととする箇所はオレンジ色をつけました。

また、もともと時数配当されておらず、予備時数などで扱うことを想定していた学習活動については、グレーの色で示しています。

1年

平時：授業時数119 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内105 + 授業以外14

※無理なく着実に学習を保障することに配慮し、さまざまな取り組みを行ったうえで、なお年度当初に予定していた内容の指導を年度内に終えることが困難である場合には、特例的な対応として、内容の一部を次年度の指導で扱うことも考えられる。その場合でも、p.170の「1年のふくしゅう」は、今年度中に扱うことが望ましい(次年度に送った学習にあたる問題は省略する)。

0 なかよし (指導時期 4月・3時間) → 授業内3時間

単元の目標

観点に合わせて仲間集めをしたり、物の個数の多少の比べ方を考え、数を比較したりすることができる。
 知 観点に基づいて仲間集めをしたり、1対1対応によって物の個数の多少を比べたりすることができる。
 考 物の個数の多少の比べ方を工夫することができる。
 主 仲間集めや多少比較に親しみ、そのたのしさを感しながら学ぼうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 なかまあつめ (教p.4～5)	1	◎示された観点や自分で決めた観点に合わせて仲間集めをし、名前を付ける。 ◎観点を変えて、別の仲間集めをする。	知 仲間集めをするときの観点を理解している。 主 示された観点や自分で決めた観点をもとに、仲間集めをしようとしている。	以降の学習に対する素地的な学習であるため省略することも考えられる。
2 くらべよう (教p.6～9)	2	◎物の個数の多少を、比べる対象どうしを線で結ぶ1対1対応によって比較する。	知 1対1対応によって物の集まりの要素の個数が比較できることを理解し、直接比較をすることができる。 考 物の個数の多少を工夫して比べている。	
	3	◎直接比較しにくい物の個数の多少を、操作しやすい物に置き換えて、1対1対応によって比較する。	知 1対1対応によって物の集まりの要素の個数が比較できることを理解し、間接比較をすることができる。 考 物の個数の多少を工夫して比べている。 主 間接比較の良さに気づいている。	

1 10までの かず (指導時期 4～5月・10時間) → 授業内7時間 + 授業以外3時間

単元の目標

10までの数について、数の数え方、数字の書き方、読み方などを理解するとともに、数系列についての学習などを通して数の概念について理解する。
 知 10までの数の数え方、数字の書き方、読み方、数の順序、系列や大小について理解し、10までの数について数えたり、数字を読んだり書いたり、物の個数を比べたりすることができる。
 考 身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉え、数の大きさや比べ方をブロックや絵などを用いて表すことができる。
 主 数に親しみ、身の回りの物を数字で表すなど、数字の書き方、読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 5までの かず (教p.10～15)	1	◎1から5までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。	知 1から5までの数の唱え方や、数字の読み方を理解している。 考 身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉えている。	
	2 3 ↓ 1時間扱い	◎1から5までの数と、数図やブロック等との関係を理解する。 ◎1から5までの数字を書く。	知 半具体物や数図や数字などを用いた、1から5までの数の表し方を理解し、数字を書くことができる。 主 物の個数を工夫して表そうとしている。	p.15下段の活動を省略して、第2, 3時を1時間扱いとする。
2 10までの かず (教p.16～21)	4	◎6から10までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。	知 6から10までの数の唱え方や数え方、数字の読み方を理解している。 考 身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉えている。	
	5	◎6から10までの数と数図等との関係を理解する。	知 半具体物や数図や数字などを用いた、6から10までの数の表し方を理	p.21下段の活動を省略して、第5, 6時を1時間扱いとする。

	6 ↓ 1 時間 扱い	◎6から10までの数字を書く。	解し、数字を書くことができる。 主 音など消えてしまう物の数を工夫して数えようとしている。	
3 かずを さがそう (教p.22～23)	7 ↓ 配 当 無	◎10までの数を用いて身の回りにある物の個数を数える。	考 身の回りの物の個数について説明している。 主 身の回りにあるいろいろな物の個数を数えようとしている。	生活科と合科で扱う。または、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
4 0という かず (教p.24)	8	◎0の意味や書き方を理解し、用いる。	知 0の意味や唱え方、書き方を理解し、個数が「無」であることを「0」で表すことができる。	
5 おおきさ くらべ (教p.25)	9	◎1から10までの数の多少や大きさを比較する。	知 1から10までの数の多少や大きさを比較することができる。 考 物の集まりの多少や数の大きさをブロックや数字を用いて捉えている。	
6 かずの ならびかた (教p.26～27)	10	◎0から10までの数の系列を理解し、順序良く並べる。	知 0から10までの数を順序良く並べることができる。 考 一定間隔で並んだ数の列について、きまりを見つけて考えている。	

2 なんばんめ (指導時期 5月・2時間) → 授業内1時間 + 授業以外1時間

単元の目標

数を順序や位置を表すものとして捉え、順序数と集合数の違いを理解し、前から○番目のように物の位置を表すことができる。
 知 順序数と集合数の違いを理解し、順序や位置を順序数を用いて表すことができる。
 考 数を順序や位置を表すものとして捉え、基点を決めて順序や位置を多様に表すことができる。
 主 前後などの言葉と数を用いると順序や位置を明確に表すことができるという良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 なんばんめ (教p.28～30)	1	◎「前(後ろ)から○番目」のように、言葉と数を用いて順序を表す。 ◎「上(下)から○番目」、「左(右)から○番目」などのように、言葉と数を用いて位置を表す。	知 順序や位置の表し方を理解し、前後などの言葉と数を用いて表すことができる。 考 数を順序や位置を表すものとして捉え、基点を決めて順序や位置を多様に表している。	
	2 ↓ 配 当 無	◎具体的な場面で、順序数と集合数の意味の違いを理解し、それらを用いる。	知 具体的な場面で、順序数と集合数の違いを理解し、順序数や集合数で表されたものを指摘することができる。 主 順序や位置の表し方を生活や学習に生かそうとしている。	p.30上段の活動は体育と合科で扱う。下段の問題を解くのは、授業以外の場合とする。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

3 いくつと いくつ (指導時期 5～6月・7時間) → 授業内7時間

単元の目標

1つの数を2つの数の和としてみる見方を理解し、1つの数を2つの数に分解したり、数の構成を理解したりする。
 知 10までの数を2つの数に分解することができ、10までの数の構成を理解する。
 考 1つの数を他の数の和として多様に捉えたり、数の並びから規則性を見出したりすることができる。
 主 数の構成的な見方に親しみ、様々な数を2つの数の和として捉えようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 いくつと いくつ (教p.31～38)	1	◎2色のおはじきの入った袋からおはじきを5個取り出すことにより、5を2つの数の和として捉え、5の数の構成を理解する。	知 5を2つの数に分解することができる。	
	2	◎6個のおはじきを利用して、6を2つの数の和として捉え、6の数の構成を理解する。	知 6を2つの数に分解することができる。 主 数の並びの規則性の面白さに気づいている。	

	3	◎さいころを利用して、7を2つの数の和として捉え、7の数の構成を理解する。	知 7を2つの数に分解することができる。 主 5～7の分解の学習をもとに、発展的に8や9などについても考えようとしている。	
	4	◎数図カードを利用して、8を2つの数の和として捉え、8の数の構成を理解する。	知 8を2つの数に分解することができる。	
	5	◎数字カードを利用して、9を2つの数の和として捉え、9の数の構成を理解する。	知 9を2つの数に分解することができる。 考 関数的な見方や考え方を働かせ、順序良く並べたときの規則性について考えている。	
	6	◎ブロックを利用して、10を2つの数の和として捉えたり、順序良く並べたときの規則性を見つけたりして、10の数の構成を理解する。	知 10を2つの数に分解することができる。 考 関数的な見方や考え方を働かせ、順序良く並べたときの規則性について考えている。	
2 10をつくろう (教p.39)	7	◎ゲームを通して、10の補数関係について習熟する。	知 10の数の分解ができ、10の数の構成を理解している。	
おうちでさんすう (教p.39)		◎家庭で10をつくるゲームを行い、10の補数関係について習熟する。		
ふくしゅう (教p.40)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

4 あわせていくつ ふえるといくつ (指導時期 6月・8時間) → 授業内8時間

単元の目標

加法の意味を操作などをもとに理解し、場面を加法の式に表して計算することができる。
 知 合併、増加の場面について、加法の意味を理解するとともに、場面を式に表して計算することができる。
 考 数量の関係に着目し、加法の場面であることを操作や図、言葉などで説明したり、式を読み取って、合併や増加の問題をつくったりすることができる。
 主 身の回りから加法が用いられる場面を見出すなど、加法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 あわせていくつ (教p.41～44)	1	◎合併の場面について、加法の意味と式表示を理解する。	知 合併の場面について、加法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から合併の場面を見出し、加法に進んで関わろうとしている。	
	2	◎様々な合併の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 加法の場面の理解を深め、図での表し方を理解している。 考 加法の場面であることを操作や言葉などで説明している。	
	3	◎問題文から合併の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 合併の場面を捉え、式に表し、和が10以下の加法の計算ができる。 考 加法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。	
2 ふえるといくつ (教p.45～48)	4	◎増加の場面について、加法の意味と式表示を理解する。	知 増加の場面について、加法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から増加の場面を見出し、加法に進んで関わろうとしている。	
	5	◎様々な増加の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 増加の場面を捉え、式に表し、和が10以下の加法の計算ができる。 考 加法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。	
	6	◎式と絵を見て、合併や増加の問題をつくる。	考 加法の式と絵を見て、合併や増加の場面を捉え、言葉で表現している。	
3 たしざんカード (教p.49)	7	◎計算カードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。	知 和が10以下の加法の計算が確実にできる。	
4 0の たしざん (教p.50)	8	◎0を含む1位数の加法について、式の意味を理解する。	知 0を含む加法の意味を理解している。 考 これまでの加法の意味をもとに、0を含む加法の式の意味を捉えている。	

5 のこりは いくつ ちがいは いくつ (指導時期 6～7月・11時間) → 授業内10時間 + 授業以外1時間

単元目標

減法の意味を操作などをもとに理解し、場面を減法の式に表して計算することができる。
 知 求残、求補、求差の場面について、減法の意味を理解するとともに、場面を式に表して計算することができる。
 考 数量の関係に着目し、減法の場面であることを操作や図、言葉などで説明したり、式を読み取って、求残や求差、求補の問題をつくったりすることができる。
 主 身の回りから減法が用いられる場面を見出すなど、減法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 のこりは いくつ (教p.51～55)	1	◎求残の場面について、減法の意味と式表示を理解する。	知 求残の場面について、減法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から求残の場面を見出し、減法に進んで関わろうとしている。	
	2	◎様々な求残の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 減法の場面の理解を深め、図での表し方を理解している。 考 減法の場面であることを操作や言葉などで説明している。	
	3	◎問題文から求補の場面を捉え、減法になることを理解する。	知 求補の場面が減法になることを理解し、式に表して、計算することができる。 考 減法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。	
2 0の ひきざん (教p.56)	4	◎0を含む1位数の減法について、式の意味を理解する。	知 0を含む減法の意味を理解している。 考 これまでの減法の意味をもとに、0を含む減法の意味を捉えている。	
3 ちがいは いくつ (教p.57～60)	5	◎求差の場面について、減法の意味と式表示を理解する。	知 求差の場面について、減法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から求差の場面を見出し、減法に進んで関わろうとしている。	
	6	◎問題文から求差の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 求差の場面を捉え、式に表して、計算することができる。 考 減法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。	
	7	◎式と絵を見て、減法の問題をつくる。	考 減法の式と絵を見て、減法の場面を捉え、言葉で表現している。	
4 ひきざんカード (教p.61)	8	◎計算カードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。	知 10以下の数から1位数をひく減法の計算が確実にできる。	
5 たしざんかな ひきざんかな (教p.62～63)	9	◎具体的な場面で、加法、減法の演算決定をし、立式して計算で答えを求める。	知 加法や減法を適用し、立式して計算で答えを求めることができる。 考 場面の数量の関係を捉え、演算決定したり、ブロックや図で説明したりしている。	
*おはなしづくり (教p.63)	10 ↓ 配当無	*お話づくりを通して、加法や減法の意味理解を深める。	主 日常の事象やこれまでの経験から加法や減法になるお話をつくろうとしている。	p.48, p.60と趣旨の近い活動であるため、省略する。
たしかめもんだい (教p.64)	11	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 問題場面から式を立て、加法や減法の計算をすることができる。	
*ふたりで おいか けっこ (教p.65)	1	*ゲームを通して、10以下の数から1位数をひく減法の計算に習熟する。	知 10以下の数から1位数をひく減法の計算が確実にできる。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

* 算数たまたばこ

6 かずしらべ (指導時期 7月・2時間) → 授業内2時間

単元目標

物の個数について、絵を用いた簡単なグラフに表し、特徴を読み取ることができる。
 知 物の個数を絵を用いたグラフに表したり、大小を比べたりすることができる。
 考 個数の大小が分かりやすくなるように、並べて整理したり、大きさをそろえたりするなどの、表し方の工夫を考えることができる。
 主 物の個数を絵を用いたグラフに表す良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 かずしらべ (教p.66～69)	1	◎曜日ごとや色ごとのあさがおの数を分類整理し、カードを用いて簡単なグラフに表したり、読み取ったりする。	知 カードを用いて簡単なグラフに表したり、グラフを読み取ったりすることができる。 考 物の個数が分かりやすくなるように整理する方法を考えている。	
	2	◎大きさの異なる野菜の個数を比べるために、大きさをそろえた絵グラフに表したり、読み取ったりする。	知 物の個数を大きさをそろえて表すと、個数の大小が正確に分かることを理解している。 主 絵を用いた簡単なグラフを生活や学習に生かそうとしている。	
ふくしゅう (教p.70)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場合で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

7 10より おおきい かず (指導時期 9月・9時間) → 授業内9時間

単元の目標

30までの数について、数え方、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算をすることができる。
 知 30までの数について、数え方、構成、表し方、読み方、順序、系列、大小を理解し、具体物の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。また、 $10+6$ 、 $12+3$ 、 $16-6$ 、 $15-3$ のような加法、減法の計算をすることができる。
 考 物の個数を10のまとまりとあといくつと捉えて、数を数え、表し方を考えることができる。また、数の構成に着目し、簡単な2位数と1位数の加減の計算の仕方を考えることができる。
 主 身の回りの物を数えるなど、数の数え方や表し方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 20までの かず (教p.71～77)	1	◎20までの物の個数について、10とあといくつという見方で数えることよいことを知り、11から20までの数の構成や表し方、読み方、順序、系列を理解する。	知 20までの数の構成、表し方、読み方を理解し、数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。 考 20までの物の個数を10とあといくつと捉えて、数字で表せばよいと考えている。 主 20までの数を、10のまとまりをつくって数えようとしている。	
	2			
	3	◎20までの物の数を数え、数字で表す。 ◎2ずつ、5ずつまとめて数える良さに気づき、まとめて数える。	知 20までの数の構成、順序、系列を理解し、数を数えたり、表したりすることができる。 主 身の回りの物の数を工夫して数えようとしている。	
	4	◎20までの数の構成、順序、系列の理解を深める。	知 20までの数の構成、順序、系列を理解している。	
2 かずのせん (教p.78～79)	5	◎20までの数直線の読み方を理解し、20までの数の大小比較をする。	知 数直線の読み方を理解している。また、20までの数の大小比較ができる。	
3 20より おおきい かず (教p.80～81)	6	◎20より少し大きい数の構成や表し方、読み方について理解する。	知 20より少し大きい数の構成や表し方、読み方を理解している。 考 20までの数の表し方をもとに、20より少し大きい数の表し方を類推的に考えている。	
4 たしざんと ひきざん (教p.82～83)	7	◎ $10+6$ や $12+3$ のような加法の計算の方法を理解し、計算する。	知 $10+6$ や $12+3$ のような加法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目して、 $10+6$ 、 $12+3$ のような加法の計算の仕方を考えている。	
	8	◎ $16-6$ や $15-3$ のような減法の計算の方法を理解し、計算する。	知 $16-6$ や $15-3$ のような減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目して、 $16-6$ 、 $15-3$ のような減法の計算の仕方を考えている。	
たしかめもんだい (教p.84)	9	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 数の構成や系列を理解するとともに、具体物の数を数えたり、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算をしたりすることができる。	

8 なんじ なんじはん（指導時期 9月・1時間） → 授業内1時間

単元の目標

「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができるとともに、時刻と生活を結び付けて考えることができる。
 知 「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。
 考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりすることができる。
 主 時計に親しみ、時刻の読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 じこくの よみかた、あらわしかた① (教p.85～87)	1	◎時刻と日常生活を結び付けて考えながら、「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりする。	知 「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。 考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりしている。 主 時刻の読み方を生活や学習に生かそうとしている。	
ふくしゅう (教p.88)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

9 3つの かずの けいさん（指導時期 10月・6時間） → 授業内6時間

単元の目標

3口の数の加法、減法及び加減混合の計算について、計算の意味や仕方を操作などをもとに理解し、場面を式に表して計算することができる。
 知 3口の加法、減法及び加減混合の場面の意味について理解し、式に表して計算することができる。
 考 3口の加法、減法及び加減混合の場面について、数量の關係に着目し、操作や図などを用いて考え、式に表したり計算の仕方を考えたり、式を読み取ったりすることができる。
 主 3口の加法、減法及び加減混合の場面を式で表す良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 3つの かずの けいさん (教p.89～92)	1	◎続いて起こる事柄を $a+b+c$ と1つの加法の式に表せることを理解し、答えを求める。	考 3口の数の加法の場面や計算の仕方を、ブロックや図などを用いて考えている。 主 3口の数の加法の場面を、1つの式に表す良さに気づいている。	
	2	◎続いて起こる事柄を $a-b-c$ と1つの減法の式に表せることを理解し、答えを求める。	知 3口の数の減法の意味について理解し、式に表したり、計算したりすることができる。 考 3口の数の減法の場面や計算の仕方を、ブロックや図などを用いて考えている。	
	3	◎続いて起こる事柄を $a-b+c$ または $a+b-c$ と1つの式に表せることを理解し、答えを求める。	知 3口の数の加減混合計算の意味について理解し、式に表したり、計算したりすることができる。 考 3口の数の加減混合の場面や計算の仕方を、ブロックや図などを用いて考えている。	
2 もんだいづくり (教p.93)	4	◎問題づくりを通して、3口の数の計算の意味の理解を深める。	考 数量の關係に着目し、式と絵から具体的な場面を考え、言葉で表現している。 主 3口の加法の式から、具体的な場面をいろいろと考えようとしている。	第1～3時で扱った計算の意味理解を深める活動であるので、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
3 くばりかた (教p.94)	5	◎具体物のいろいろな分け方を考え、図や式に表す。	知 具体物を同じ数ずついくつかに分けることができる。 考 具体物の分け方を考え、図や式で表現している。	
たしかめもんだい (教p.95)	6	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 3口の数の加法、減法及び加減混合の場面について理解し、図に表したり、式に表して計算したりすることができる。	

*どんな けいさん するのかな (教p.96)	1	*具体的な問題場面で、加法、減法のどちらの演算を用いればよいか判断し、問題を解決する。	考 数量の関係を正しく捉え、式を立てた根拠を言葉、図、ブロックなどで説明することができる。 主 既習の学習を使って、演算決定しようとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
-------------------------------	---	---------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------

*算数たまたま

10 ながさくらべと ひろさくらべ (指導時期 10月・5時間) → 授業内3時間 + 授業以外2時間

単元の目標

長さや広さの比べ方を考え、直接比較や間接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができる。
 知 身の回りにある物の長さや広さについて、直接比較、間接比較、任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、長さや広さを比べることができる。
 考 身の回りにある物の特徴に着目し、長さや広さについて、媒介物を用いて間接比較することや、任意単位のいくつかで数値化して測定することなど、比べ方を考えることができる。
 主 長さや広さに親しみ、長さや広さの比較の仕方の良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 ながさくらべ (教p.97～101)	1 2 ↓ 1 時間 扱い	◎直接比較によって、長さの長短を比較する。	知 直接比較の仕方を理解し、長さを比較することができる。 主 身の回りの物の長さに進んで関わり、比べ方を考えようとしている。	p.97主問題1と、p.99主問題2、鉛筆2について、指導者の演示を中心とした活動とし、第1、2時を1時間扱いとする。
		◎間接比較によって、長さの長短を比較する。	知 間接比較の仕方を理解し、間接比較によって、長さを比較することができる。 考 物の長さについて、媒介物を用いて間接比較することを考えている。	
	3	◎任意の長さを単位として、そのいくつかで長さを数値化し、その数値をもとに長さを比較する。	知 任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、長さを比較することができる。 主 任意単位を用いた数値化による比較の良さに気づいている。	
2 ひろさくらべ (教p.102～103)	4 5 ↓ 1 時間 扱い	◎直接比較によって、広さの大小を比較する。	知 直接比較によって、広さを比較することができる。 考 長さと同じように、直接比較によって、広さを比べようと考えている。	p.102主問題1と、p.103主問題2について、指導者の演示を中心とした活動とし、第4、5時を1時間扱いとする。鉛筆3は省略する。
		◎任意の広さを単位として、そのいくつかで広さを数値化し、その数値をもとに広さを比較する。	知 広さも任意単位によって数値化して比較できることを理解している。 考 長さと同じように、任意単位を用いて広さを比べようと考えている。	

11 たしざんカード ひきざんカード (指導時期 10～11月・2時間) → 授業内1時間 + 授業以外1時間

単元の目標

たし算やひき算の計算カードを順序良く並べ、その並びから数や式の規則性について考えることができる。
 知 順序良く並んだ計算カードの被加数、加数、被減数、減数の関係や、和や差の変わり方について理解する。また、1位数と1位数の加法及びその逆の減法の計算に習熟する。
 考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えることができる。
 主 数や式の規則性の面白さに気づき、規則性をいろいろと見つけようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 たしざんカード ひきざんカード (教p.104～105)	1 2 ↓ 1 時間 扱い	◎規則的に加法の計算カードを並べ、並べたカードからきまりを見つかる。	知 1位数と1位数の加法の計算ができる。 考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えている。	p.104主問題1、p.105主問題2ともに、カードがあらかじめ並んだものを提示して、きまりを見つける活動のみとし、第1、2時を1時間扱いとする。 (なお、加法、減法の習熟に十分留意する。)
		◎規則的に減法の計算カードを並べ、並べたカードからきまりを見つかる。	考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えている。 主 数や式の規則性の面白さに気づき、規則性をいろいろと見つけようとしている。	

12 たしざん（指導時期 11月・7時間） → 授業内6時間 + 授業以外1時間

単元目標

1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法について、10のまとまりに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。
 知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる繰り上がりのある加法の計算の仕方を理解し、計算することができる。
 考 10のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 繰り上がりのある加法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、加法を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 たしざん (教p.106～114)	1	【アプローチ】 ◎答えが10になる加法を考える場面から数が大きくなると答えが10を超えることを予想し、繰り上がりのある加法に興味・関心をもつ。 ◎1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算原理や方法を理解する。(加数分解)	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の仕方を理解している。 考 10のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明している。 主 ブロックや図を使った考えや、被加数を10にする考えなどのそれぞれの良さを認めたり、関連付けたりしながら、加法の計算について話し合っている。	
	2	◎1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の理解を深める。	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算ができる。 考 被加数が8の場合も、前時の被加数が9の場合と同じように考えれば計算できると考えている。	
	3	◎1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算原理や方法を理解する。(被加数分解)	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の仕方を理解している。	
	4	◎1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の理解を深める。(加数分解と被加数分解)	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。	
2 たしざんカード (教p.115)	5 6 ↓ 1時間扱い	◎1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算カードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。また、答えが同じになるカードを見つける。	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が確実にできる。 主 答えが同じになる計算カードの並びから、規則性をいろいろと見つけようとしている。	p.115主問題1、鉛筆1の活動をそれぞれやや短時間のものとし、第5、6時を1時間扱いとする。
たしかめもんだい (教p.116)	7	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。	
よみとるちからを のばそう (教p.117)	1	◎問題文を読み取り、たした答えが小さくなる組み合わせの条件を見つける。	考 問題文から場面を読み取り、自分の考えを式や言葉を使って表現している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

13 かさくらべ（指導時期 11月・2時間） → 授業内1時間 + 授業以外1時間

単元目標

かさの比べ方を考え、直接比較、間接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができる。
 知 身の回りにある物のかさについて、直接比較、間接比較、任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、かさを比較することができる。
 考 長さや広さの比較の仕方をもとに、身の回りにある物のかさについて、媒介物を用いて間接比較することや、任意単位のいくつ分かで数値化して比較することなど、比べ方を考えることができる。
 主 かに親しみ、かさの比較の仕方の良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 かさくらべ (教p.118～119)	1 2 ↓ 1時間扱い	◎直接比較、間接比較によってかさの大小を比較する。	知 直接比較、間接比較の仕方を理解し、かさを比較することができる。 考 長さの学習をもとに、かさを比較する方法を考えている。	p.118主問題1、p.119主問題2ともに、活動を指導者の演示を中心としたものとし、第1、2時を1時間扱いとする。
		◎任意単位を用いて、そのいくつ分でかさを数値化し、その数値をもとにかさを比較する。	考 長さや広さの比較の仕方をもとに、かさを比較する方法を考えている。 主 任意単位を用いた数値化による比較の良さに気づいている。	

14 ひきざん（指導時期 11～12月・7時間） → 授業内6時間 + 授業以外1時間

単元目標

10いくつから1位数をひいて差が1位数になる減法について、「10といくつ」とみる見方などに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。
 知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。
 考 被減数を「10といくつ」とみる見方に着目し、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 繰り下がりのある減法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、減法を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 ひきざん (教p.120～125)	1	〔アプローチ〕 ◎10から数をひく減法を考える場面から、被減数が大きくなった場合を予想し、繰り下がりのある減法に興味・関心をもつ。 ◎10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算原理や方法を理解する。(減加法)	考 被減数を「10といくつ」とみる見方に着目し、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、説明している。 主 繰り下がりのある減法の計算の仕方について、これまでの学習をもとに考えようとしている。	
	2	◎10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の理解を深める。	知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算ができる。 考 減数が8の場合も、前時の減数が9の場合と同じように考えれば計算できると考えている。	
	3	◎10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算原理や方法を理解する。(減々法)	知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方を理解している。 考 10のまとまりから1位数をひくよりも、被減数の一の位からひくことの良さに気づき、それを説明している。	
	4	◎10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の理解を深める。(減加法と減々法)	知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を減加法や減々法でできる。	
2 ひきざんカード (教p.126)	5 ↓ 6 ↓ 1 時間 扱い	◎10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算カードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。また、答えが同じになるカードを見つける。	知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算が確実にできる。 主 答えが同じになる計算カードの並びから、規則性をいろいろと見つけようとしている。	p.126主問題1、鉛筆1の活動をそれぞれやや短時間のものとし、第5、6時を1時間扱いとする。
たしかめもんだい (教p.127)	7	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。	
よみとるちからを のぼそう (教p.128)	1	◎問題文を正しく読み取り、既習を生かして買い物場面の問題を解決する。	考 問題文から場面を読み取り、既習事項を活用して問題を解決している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

15 いろいろな かたち（指導時期 12月・5時間） → 授業内4時間 + 授業以外1時間

単元目標

身の回りの物の形について、形状や機能性などの特徴を理解し、図形の理解の基礎となる経験を豊かにする。
 知 身の回りにあるいろいろな立体図形や立体の面(平面図形)について、形状や機能性などの特徴を理解し、具体物を構成したり、絵をかいたりすることができる。
 考 物の色、材質などを捨象して形に着目し、身の回りにあるいろいろな立体図形や立体の面(平面図形)について、形の特徴を捉えることができる。
 主 身の回りにある物の形に親しみ、形を構成したり分類したりするたのしさや良さを感じながら学ぼうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 かたちづくり (教p.129～130)	1 2	◎いろいろな箱や缶、筒などを用いて、身の回りにある具体物を作る活動を通して、物の形を認めたり、形の特徴を捉えたりする。	考 立体図形の形状や機能面に着目して、具体物を構成し、それを説明している。 主 立体図形に親しみ、身の回りの具体物を構成する活動のたのしさを感じながら学んでいる。	

2 はこの かたち (教p.131)	3	◎いろいろな箱や缶、筒などの形に着目した仲間集めの活動を通して、立体の形の特徴を捉える。	知 基本的な立体図形の特徴を理解している。 考 物の色や材質などを捨象して形に着目し、立体図形の特徴を捉えている。	
3 めんの かたち (教p.132～133)	4 5 ↓ 1 時間 扱い	◎いろいろな箱や缶、筒などの面の形を写し取り、絵をかく活動を通して、基本的な平面図形の特徴を捉える。	知 基本的な立体図形の構成要素である平面図形の特徴を理解している。 考 立体の面を写しかいた絵について、どんな形を使ったかを説明している。	p.132三角2の活動を省略し、面の形の理解と絵をかく活動に焦点化することで、1時間扱いとする。
ふくしゅう (教p.134)		◎ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまりが見られる場合は、個別に支援する。

16 大きな かず (指導時期 1～2月・11時間) → 授業内10時間 + 授業以外1時間

単元目標

120程度までの数について、既習の数をもとに、数の数え方、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、簡単な2位数の加法、減法の計算をすることができる。

知 120程度までの数について、数の数え方、構成、表し方、読み方、順序、系列、大小を理解し、具体物の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。また、簡単な2位数の加法、減法の計算をすることができる。

考 2位数の表し方、読み方について、既習事項をもとに類推的に見出したり、10を単位とした数の見方に着目し、何十の加法、減法の計算の仕方を見出したりすることができる。

主 10のまとまりをつくって数える良さに気づき、学習に生かそうとしたり、身の回りの物を数えるなど、数の数え方や表し方を生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 100までの かず (教p.135～140)	1 2 ↓ 1 時間 扱い	◎具体物の個数を10のまとまりをつくらせて数え、2位数の構成や表し方、読み方を理解する。	知 2位数の構成、表し方、読み方を理解し、100未満の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。 考 既習の数から類推して、2位数の表し方や読み方を見出している。	おはじき取りの活動を行わずに、教科書の写真を使って活動することで、第1、2時を1時間扱いとする。
	3	◎2位数の構成の理解を深める。	知 2位数の構成を理解している。	
	4	◎100の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。	知 100の構成、表し方、読み方を理解している。	
2 100までの かずの ならびかた (教p.141～142)	5	◎数表を使って100までの数の並びについて調べ、その特徴に気づく。	知 100までの数の順序、系列を理解している。 考 数表から100までの数の並び方の特徴に気づき、それを説明している。	
3 100より 大きい か ず (教p.143)	6	◎120程度までの3位数についての読み方、表し方、順序、系列を理解する。	知 120程度までの3位数の構成、表し方、読み方、順序、系列を理解し、順序、系列に従って数を並べることができる。	
4 かずのせん (教p.144～145)	7	◎120程度までの数の数直線を見て、数の系列、大小などを理解する。	知 120程度までの数の数直線の読み方を理解する。また、120程度までの数の大小を比較することができる。 考 数の構成や数直線上の位置をもとに、数の大小を判断している。	
おうちでさんすう (教p.145)		◎既習を生活の中で生かし、身の回りの数を読んだり、数を唱えたりする。		
5 たしざんと ひきざん (教p.146～147)	8	◎「何十」+「何十」(和が100まで)の計算や、「何十」-「何十」の計算の方法を理解し、計算する。	知 「何十」+「何十」や「何十」-「何十」の10を単位とした答えの求め方を理解し、計算できる。 考 10を単位とした数の見方に着目し、「何十」+「何十」や「何十」-「何十」の計算の仕方を見出している。	
	9	◎2位数+1位数(繰り上がりなし)や2位数-1位数(繰り下がりなし)の計算の方法を理解し、計算する。	知 2位数+1位数や2位数-1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。	
6 かずの みかた (教p.148) * かずを 見つけよう (教p.148)	10	◎1つの数を多面的にみて表す。 * 身の回りで使われている数字や数を見つめ、数の理解を深める。	考 1つの数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	「かずを 見つけよう」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
たしかめもんだい (教p.149)	11	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数の構成や数の系列を理解し、数を数えることができる。また、簡単な場合の2位数の加法、減法の計算ができる。	

* 算数たまてばこ

17 なんじなんぷん（指導時期 2月・3時間） → 授業内3時間

単元の目標

「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができるとともに、時刻と生活を結び付けて考えることができる。

知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。

考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりすることができる。

主 時計に親しみ、時刻の読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 じこくの よみかた、あらわしかた② (教p.150～154)	1 2	◎時刻と日常生活を結び付けて考えながら、「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりする。	知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。 考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりしている。	
	3	◎模型時計を使った活動などを通して、時刻の読み方に習熟する。	知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。 主 時刻の読み方を生活や学習に生かそうとしている。	
おうちでさんすう (教p.154)		◎既習を生かし、普段から時刻を意識して生活する。		

18 ずをつかって かんがえよう（指導時期 2月・6時間） → 授業内6時間

単元の目標

図を用いて数量の関係を捉え、順序数や異種の量、求大や求小の場面でも加法、減法が適用できることを理解し、加法、減法の意味の理解を深める。

知 順序数や異種の量、求大や求小の場面について、加法、減法の式に表せることを理解し、問題を解決することができる。

考 順序数や異種の量、求大や求小の場面について、図に表して数量の関係を捉え、立式の根拠を説明することができる。

主 図を用いて数量の関係を捉える良さに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 ずをつかって かんがえよう (教p.155～160)	1	◎前と後ろに並んでいる人数に1をたす問題について、図をもとに問題の構造を捉え、解決する。	考 図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。 主 図を用いて数量の関係を捉える良さに気づき、学習に生かそうとしている。	
	2	◎順序数について、加法や減法が適用できることを理解し、問題を解決する。	知 順序数の問題について、加法や減法を適用し、立式して答えを求めることができる。 考 順序数の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。	
	3	◎異種の量について、加法や減法が適用できることを理解し、問題を解決する。	知 異種の量について、加法や減法が適用できることを理解し、立式して答えを求めることができる。 考 異種の量の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。	
	4	◎求大の場面で加法を適用し、問題を解決する。	知 求大の場面で加法を適用し、立式して答えを求めることができる。 考 求大の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。	
	5	◎求小の場面で減法を適用し、問題を解決する。	知 求小の場面で減法を適用し、立式して答えを求めることができる。 主 求大の図の表し方をもとに、求小の場面でも図を用いて考えようとしている。	
たしかめもんだい (教p.161)	6	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	考 図を用いて数量の関係を捉え、問題を解決している。	

19 かたちづくり（指導時期 2～3月・4時間） → 授業内3時間 + 授業以外1時間

単元の目標

基本的な平面図形の特徴や操作について理解し、図形の理解の基礎となる経験を豊かにする。
 知 色板や数え棒、点と点を用いて、いろいろな形を構成することができる。また、基本的な平面図形の特徴や移動の操作について理解する。
 考 色や向きを捨象して形に着目し、形の特徴を捉えることができる。
 主 平面図形に親しみ、図形を構成したり、移動させたりする活動をたのしみながら学ぼうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 いろいたならべ (教p.162～164)	1 2 ↓ 1 時間扱い	◎色板を用いていろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 色板を用いて、いろいろな形を構成することができる。 主 平面図形に親しみ、色板を用いた図形の構成活動をたのしみながら学んでいる。	p.163鉛筆1とp.164鉛筆2を省略し、第1, 2時を1時間扱いとする。
		◎色板を移動して形を変化させ、変化の様子や移動の仕方を理解する。	知 ずらす、回す、裏返すなどの基本的な操作について理解している。 考 色板を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、いろいろな形を構成することを考え、どのような操作をしたか説明している。	
2 かぞえぼうならべ (教p.165～166)	3	◎数え棒を用いていろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 中空の場合でも、中実のものと同様に物の形を認識し、数え棒を用いて、いろいろな形を構成することができる。 主 基本的な平面図形に親しみ、数え棒を用いた図形の構成活動をたのしみながら学んでいる。	
	4	◎点と点を線でつないでいろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 基本的な平面図形の特徴について理解し、点と点を線でつないで、いろいろな形を構成することができる。	
*どこに あるかな (教p.167)	1	*数を用いた平面上の物の位置の表し方を理解する。	知 平面上での位置の表し方を理解し、数を用いて表すことができる。 主 順序数を用いると位置を正確に表すことができる良さに気づいている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
プログラミングに ちょうせん！ (教p.168)		◎迷路のゴールに到達するための命令の組み合わせを考える。	考 左右の向きやますの数を正しく判断し、どのように命令を組み合わせればゴールまで進めるかについて考えている。	
よみとるちからを のぼそう (教p.169)	1	◎たくさんの情報の中から、必要な情報を選択し、適切に問題を解決する。	考 複数の情報の中から、必要な情報がどれかを正しく判断し、説明している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
1年の ふくしゅう (教p.170～172)	1 2	◎1学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		

* 算数たまたまぼこ